



山用具の手入れをしよう

2) 雨具について

雨具は山を歩く我々にとって実に重要な位置付けといえます。平成21年に北海道大雪山系トムラウシ山で発生した大量遭難を皆さんは覚えていますか。私はその時登山行で北海道にいました。たまたまりーダーが事前に得た情報で計画を一部変更していたために、大雪山系とは離れたエリアにいたのです。本来ならその日我々も大雪山系に居たはずなのです。遭難したパーティーは低体温症が原因で多くが命を落としました。行動初日から雨と風にたたかれ、二日目の宿泊場所も避難小屋でした。濡れた衣服や雨具をちゃんと乾かすすべはなく、三日目も又雨風が彼らを襲いました。二日間の疲労と、乾き切らない雨具が体力を奪いました。私も50数年前ワンダーフォーゲル部の合宿で日高に入り、台風に襲われ、日高から脱出した後、帯広の郊外の牧場でだるまストーブを焚いてもらって暖をとった事を思い出しました。8月の初旬の事です。

現在、山道具としての雨具はゴアテックス素材のセパレートのもが主流です。昔の雨具を知っている者としては隔世の感があります。基本的には雨が降ったら濡れて歩く事が当たり前でした。ポンチョやゴム引きの合羽が普通でした。汗は外に出し、雨は弾いてくれる、今や我々山に親しむ者にとって必需品ですが、靴と同じように使用しているうちに劣化が始まります。又、幾度も雨に当たっているうちに防水機能も落ちてきます。雨に当たった時生地が水分が染み込んでいたらその部分は防水能力が失われているのです。

トムラウシ山での遭難事故の参加者はある程度の登山経験者達でしたが、雨具が100%の機能を保持していたかという点は疑問があるのです。ではどうしたらいいのでしょうか。

手入れの基本は靴の場合と同じです。先ずきれいにするのは手洗いです。洗濯機で洗ってもいいのですが、脱水はせず日陰干しで乾かします。その後は当て布をしてアイロンで加熱処理(150度位)をする事によって機能は回復します。皆さんは登山の後今日使用しなかった雨具をどうしていますか。すぐ次の登山があるからとそのままにいませんか。雨具にとって理想的なのはハンガーにかけて自然乾燥させて保管するのが一番いいのです。又、洗剤もあまりなじみのない「ニクワックステックウォッシュ」という洗剤です。紙面に限りがあるので、ザックやステックについては次の機会に譲りたいと思います。ご自分の登山用具にも心使いをして安全登山をしましょう。

尚、インターネットの出来る方は「登山用具 手入れ」入力すると用具メーカー「モンベル」の手入れのハウツーが出ています。参考まで。